

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

目次

Pages

➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ 会員寄稿記事	2
➤ 会議・イベント案内	5
➤ 書籍等の紹介	5
➤ 会員募集中	6

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

「小さな自然再生」普及プロジェクトー現地研修会 in 愛知県豊田市・岩本川 開催案内(9/8 火)

JRRN ニュースレター7月号でご案内の通り、本年は「小さな自然再生」の普及促進に向けた2回の現地研修会を開催することとなり、第1回研修会を愛知県豊田市・岩本川で行うことが決まりました。

本研修は、「水辺の小さな自然再生事例集」(2015年3月発行)で紹介した小さな自然再生の考え方、留意点、現場の工夫等について、事例集編集委員による座学研修や意見交換を通じて学ぶとともに、矢作川流域岩本川にプロジェクト関係者とともに足を運び、現場を歩きながら川の特徴やプロジェクトの進め方を議論し、

研修参加者で小さな自然再生の知見を共有することを目的に開催します。

本研修会の参加申込みやお問い合わせは、以下のJRRN ホームページをご覧ください。(8/20 申込〆切)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/604.html>

※本活動は、(公財)河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施致します。

(JRRN 事務局・和田彰)

第1回 「小さな自然再生」現地研修会 愛知県豊田市・岩本川

- 日 時： 2015 年 9 月 8 日 (火) 10:00～17:00
- 主 催： 「小さな自然再生」事例集編集委員会
- 共 催： 豊田市矢作川研究所、JRRN
- 会 場： 愛知県豊田市 (豊田市矢作川研究所／岩本川)
- 対 象： 小さな自然再生に関心のある方々
- 定 員： 50 名
- 参加費： 無料 (懇親会別)
- プログラム (案)：



岩本川

■講師：矢作川研究所／事例集編集委員、■司会進行：(一社) ClearWaterProject、■記録等：JRRN 事務局

※タイトル及び講師は変更の可能性があります。

(午前) 会議室にて「水辺の小さな自然再生」事例集を教材とした座学研修

- 岩本川における取組み紹介 (矢作川研究所)
- 小さな自然再生の考え方、留意点、事例紹介 (三橋弘宗：兵庫県立大学 自然・環境科学研究所)
- 地質・地形特性からみた岩本川の特徴 (原田守啓：岐阜大学 流域圏科学研究センター)
- 岩本川の生物群、生息場の紹介 (矢作川研究所)

(昼休み) 各自昼食 (豊田市駅周辺店舗 or 弁当等)

(午後1) 岩本川にて現場研修

岩本川を歩きながら、川の様子、生き物、地質等を観察し、小さな自然再生に関わるアイデアを交換。

(午後2) 会議室にて岩本川の小さな自然再生に向けた議論

- 岩本川と同様に花崗岩地質特性を持つ福岡・上西郷川の事例紹介 (林博徳：九州大学大学院 工学研究院)
- 座学と現場研修を踏まえ、小さな自然再生の技術や協働の進め方について意見交換。

※研修会終了後(17:30-19:30)、豊田市駅周辺で懇親会を予定しています。(自由参加 ※要事前申込)

8月



隅田川と東京スカイツリー



隅田公園



あの日のあの川 リレー日記 ～第7話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第7話主人公 中原 結衣

(筑波大学理工学群工学システム学類4年 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(■川ガール・□川系男子)
(出身地を流れる川：東京都隅田川)

「隅田川の思い出」

いつのこと？：小学生時代
どこの川？：隅田川

(次は佐藤達裕さんにバトンを託します)

小学校1年生のとき、私は家族とともに浅草へ引っ越してきた。浅草に住む母の祖父と祖母、私にとっては“ひいおじいちゃん”と“ひいおばあちゃん”が90歳を過ぎ、「まだまだ二人とも元気にしているけどやっぱり心配だから、みんなで近くに住もう」というのが理由だった。

特にひいおじいちゃんは、小さかった私と弟にいろんな話をしてくれた。昔の浅草のこと、関東大震災のこと、戦争のこと。その中には、街のすぐ横を流れる隅田川の話もあった。

「おじいちゃんが子供の頃は、隅田川は屋形船やレガッタでにぎやかだったよ。魚が泳いでいて、水も綺麗だった」

隅田川は、ひいおじいちゃんが子供のときもあったのか！という驚きと(今思えばすごく当たり前のことだが)、自分の目で見る現在の川の姿との違いに、子供ながらに興味深かったことを覚えている。

ひいおじいちゃんから一つ世代を進め、私の祖母に話を聞いてみると、あまり川に対していい思い出はないようである。祖母が子供だったのはちょうど、戦後から高度経済成長を経て、都市河川の環境が最悪だった頃で、隅田川からはいつも悪臭がし、川沿いにあった旅館などは臭いのせいで窓が開けられず、全て立ち退いてしまったそうだ。犬や猫の死骸も浮いていたという。

私自身も、小さい頃はあまり隅田川が好きではなかった。その頃よりはだいぶ水質も改善され、悪臭もしなかったが、なんとなく祖母の話を思い出して、汚い川のような気がしていた。

その印象を決定づけた思い出として、ある日小学校で配られた『すみだがわのいきもの』というパンフレットがある。小学生の頃の私は、当時話題になっていた“多摩川のたまちゃん”というアザラシを思い出しながら、わくわくした気持ちでそのパンフレットを開いたのだが、隅田川の生き物として紹介されていたのは、なんだかニョロニョロして足がたくさんあるものや、濁った色のクラゲなどだった。完全に期待を裏切られた私は、一瞬でそのパンフレットを閉じた。

中学生、高校生になると、通っていた学校が家から遠く地元にいる時間が少なくなったこともあり、隅田川へ意識を向けること自体が少なくなった。隅田川への印象が変わる出来事があったのは、大学2年生の時である。『隅田川で屋形船に乗って川柳を詠む』という地元の小学生対象のイベントをお手伝いしたときに、船から間近に川を見て、陽の光を反射しキラキラと輝いている様子を素直に「きれいだな」と思った。また、その時久しぶりに、ひいおじいちゃんの話を出し、ひいおじいちゃんが子供の頃にもあった隅田川の屋形船に、今自分も乗っているのだと考えると、なんだか不思議な気分がした。

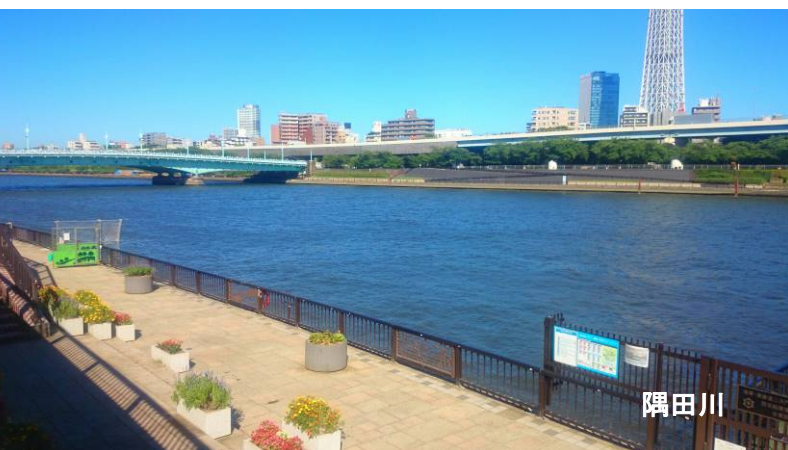
そして今回、川の思い出を書く機会を与えてもらい思い返してみると、私の幼少期の思い出の中かなりの割合で隅田川が出てくことに気付いた。小学校1年生の夏休みに、麦わら帽子をかぶって川沿いの道を自転車で走り毎日プールへ行ったこと。お父さんとキャッチボールをしたこと。珍しく雪が積もった日の朝、弟と隅田公園で小さな雪だるまを作ったこと。花火大会やお花見。川沿いにある隅田公園のアスレチックは、一周出来るようになっていて、小学生の頃は日が暮れるまで何周でもぐるぐると遊び続けた。あの当時は隅田川があまり好きではなかったはずなのに、楽しかった思い出の中には川の風景が当たり前のように残っている。

小学生の時は、ひいおじいちゃんが子供の時なんてすごく昔だなと感じたが、実際にはそれよりも何百年も前から川は流れ続けていて、その間に周辺の街並みや人は変化し続けている。そしてその時代ごとに、人それぞれ違った川への思い出があるのかもしれない。

2012年に東京スカイツリーが完成したことで河川敷などが再開発され、隅田川の周辺は私が小学生だった頃と比べてもさらに変化している。現在小学2年生の従妹は、スカイツリーまで遊びに行くときに、よく橋の上で立ち止まって川を眺めているが、今度従妹にも、昔ひいおじいちゃんから聞いた隅田川の話をしてみようと思う。



アスレチックで
遊ぶ従妹



隅田川



隅田公園のアスレチック

水辺からのメッセージ No.75

岡村幸二 (JRRN 会員)

港まちの象徴： 華やかなモトワヴァ川沿いにひととき目立つクレーン倉庫



撮影：2014 年 8 月（ポーランド・グダニスク）

◆ポーランドで最も美しい町のひとつ

グダニスクはバルト海に面した港湾都市。14 世紀にはハンザ同盟都市として栄えました。旧市街にはゴシック、ルネサンス、バロックの様々な時代の建築が見られますが、そこにはグダニスク市民の記憶がたくさん詰まっているようです。グダニスク海洋博物館はモトワヴァ川を挟み、旧市街側にある木造クレーンと、対岸の大型倉庫で構成されています。この木造クレーンは高さ 25m 以上の巨大建造物ですが、戦争で破壊されたあとに復元されています。

■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■ 応用生態工学会札幌セミナー

○日時：2015 年 8 月 17 日 (月)
○主催：応用生態工学会札幌、寒地土木研究所 他
○場所：南区区民センター 他 (札幌市南区)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2166.html>

■ 第 42 回利根川研修会

○日時：2015 年 8 月 20 日 (木)～22 日 (土)
○主催：一般社団法人知水文化研究会
○場所：利根川流域(渡良瀬川～利根川中流～江戸川)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2160.html>

■ 第 20 回水シンポジウム 2015 in ふくい

○日時：2015 年 8 月 27 日 (木)～28 日 (金)
○主催：第 20 回水シンポ 2015 in ふくい実行委員会
○場所：福井県県民ホール (福井県福井市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2132.html>

■ 第 8 回いい川・いい川づくりワークショップ in 仙台

○日時：2015 年 8 月 29 日 (土)～30 日 (日)
○主催：いい川・いい川づくり実行委員会
○場所：東北工業大学 (宮城県仙台市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2126.html>

■ 水文・水資源学会 2015 年度研究発表会 (東京大会)

○日時：2015 年 9 月 9 日 (水)～11 日 (金)
○主催：水文・水資源学会
○場所：首都大学東京 南大沢キャンパス (東京都八王子市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2144.html>

■ 応用生態工学会 第 19 回大会

○日時：2015 年 9 月 10 日 (木)～13 日 (日)
○主催：応用生態工学会
○場所：日本大学工学部キャンパス (福島県郡山市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2128.html>

■ 応用生態工学会公開シンポジウム「生態系機能を活用した減災/防災/復興」

○日時：2015 年 9 月 12 日 (土) 13:00-16:45
○主催：応用生態工学会
○場所：日本大学工学部キャンパス (福島県郡山市)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2140.html>

■ 第 15 回 川に学ぶ体験活動全国大会 in 尻別川

○日時：2015 年 9 月 26 日 (土)～27 日 (日)
○主催：川に学ぶ体験活動全国大会 実行委員会
○場所：ニセコ町民センター (北海道虻田郡)
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2162.html>

(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)

- 2015.8.2-7(シンガポール) 7th APHW Conference
- 2015.9.21-23(ブリスベン/オーストラリア) 18th International Riversymposium
- 2015.11.2-6(アムステルダム/オランダ) Amsterdam International Water Week
- 2015.11.9-10(ウィーン/オーストリア) European River Symposium 2015
- 2016.2.8-12(メルボルン/オーストラリア) 11th Int. Symposium on Ecohydraulics
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.8.29-31(コロンボ/スリランカ) 20th Cong. of IAHR Asia Pacific Division
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 Publications

■ できることからはじめよう 水辺の小さな自然再生事例集 (2015.3 発刊)

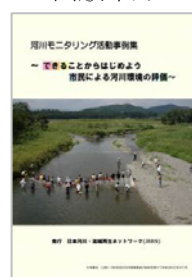
- ・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問
- ・編集：「小さな自然再生」事例集編集委員会
- ・デザイン：本間由佳 鶴川女子短期大学
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2015 年 3 月



市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組む「小さな自然再生」の事例集です。小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者が協働制作しました。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることからはじめよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・監修：白川直樹 筑波大学准教授 (JRRN 理事)
- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・編集：JRRN 事務局、筑波大学白川(直)研究室
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク (JRRN)
- ・出版年月：2014 年 3 月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

■ 上記冊子の「印刷製本版」入手方法 ※PDF 版はこちらから: <http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>
JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)
Email: info@a-rr.net / 電話: 03-6228-3862

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず**無料**です。
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、
所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご
参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

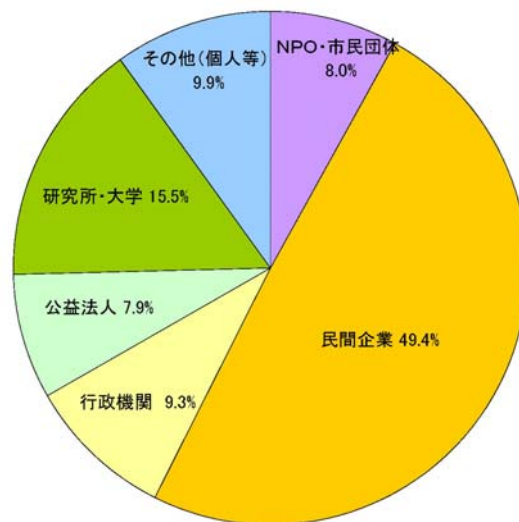
会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」を
ご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した
「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信され
ます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が
入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加
することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集
の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベ
ント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川
再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援
を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2015 年 7 月 31 日時点の個人会員構成
(個人会員数：707 名、団体会員数：56 団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川 1 丁目 17 番 24 号 新川中央ビル 7 階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

